

令和6年度 同愛記念ホーム拠点事業報告書

令和6年度は、資金収支計算においては黒字であったが、事業活動計算においては赤字決算となった。これは、大規模修繕に関連する経費のすべてをホーム拠点が保有する積立金を財源に充てているため、事業活動計算上、一時的な赤字計上となったものである。また、大規模修繕は2か年計画としているため、令和7年度の収支及び損益の状態も同様となる見通しである。

なお、本年度大規模修繕に要した費用は合計198百万円。この支出に充てるために取り崩した積立金は190百万円であった。これらの大規模修繕にかかる費用を除いた事業・事務費比率は26.3%、同様にみた当期活動増減差率はプラス6%であり、経営状況は良好である。また、大規模修繕にかかる経費支出後の財政状態においても、流動比率261.7%、固定比率82.5%、純資産比率60.3%と、経営上の安全性を維持することができた。

- ホーム拠点区分、損益ベースにおける人件費比率は65.2% (R5:67.1%)、事業・事務費比率は43.8% (R5:24.5%)、当期活動増減差率はマイナス11.4% (R5:5.6%) であった。
- 令和2年度から導入した新給与体系を中心とする組織体制も定着し、本年度から一本化された介護職員等処遇改善加算においては『加算Ⅰ』を取得、相応の収入を得ることができた。併せて、東京都介護職員・介護支援専門員居住支援特別手当を申請・取得し、さらなる処遇の改善に努めた。
- 本年度も新卒職員をはじめとする職員採用を安定的に行い、特に若手職員の賃金改善を継続、職員の定着につなげることができた。令和6年度の採用職員は12名（正職員7名 非常勤5名）、退職職員は11名（正職員7名 非常勤4名）、育児休業者1名であった。年度末時点での正職員平均年齢は43.7歳となり、5年前と比べて約6歳の若返りを果たした。
- 働き方改革及びワーク・ライフバランスの推進に努めるべく有給休暇・リフレッシュ休暇の取得、育児休暇取得を継続的に推進した。年5日の年次有給休暇取得の義務化をさらに推進するため、就業規則を改正し、年次有給休暇の付与日を令和7年1月から病院と同じく1月1日基準に統一するとともに、本年6月からは年次有給休暇の取得及び勤務時間の振替を1時間単位で行えるよう改善した。
- さらに、職員の健康の維持・増進のため、福利厚生の一環として7月から職員を対象とした三療（あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう）ボランティアを導入し、大きな効果があった。このため、令和7年度からは福利厚生を担うヘルスキーパー及び障害者雇用の推進を兼ね、三療師の資格を持つデイサービス機能訓練指導員（視・聴覚障害者）を正職員として採用した。
- 利用者支援、サービスの提供については、より質の高いサービス向上を目指すべく、科学的介護情報システム『L I F E』を本格的に運用開始するとともにホームの委員会体制を刷新し、取得でき得る加算についてはできる限り取得するための体制整備を行った。
- 感染症対策に関しては引き続き感染防止に努め、クラスターの発生は一度もなかった。これにより、コロナ禍で中断していた利用者家族との懇談会や看取り介護に関する家族勉強会なども再開した。

以上により、令和6年度も地域福祉に貢献するため、地域公益活動等に積極的に取り組み、地域から信頼される施設運営を目指すべく各事業に取り組んだ。

以下は事業毎の重点事項である。

(1) 特別養護老人ホーム

① サービスの質の向上と人材育成

令和6年度はサービスの質の向上を図るため、各委員会が連携しながら内容の濃い内部研修等を精力的に実施するとともに、参加できなかった職員も聴講できるよう研修動画を随時見られるよう工夫した。こうした委員会活動の充実が職員の士気の向上につながり、外部研修にも積極的に参加するなどして様々な知識を取り入れ、共有した。特に、サービスの根幹となる高い倫理観については今後も継続して向上に努めていく。

② 未取得加算解消及び新加算取得の推進

令和6年度は未取得加算の解消に計画的に取り組み、「協力医療機関連携加算」などの取得を実現した。併せて、令和7年度はさらに取得できる加算について検討し体制を整える。

③ 高い定員充足率の維持と経営意識の共有

令和6年度下半期は利用者の入院が激増し、ベッド稼働率が94%まで落ち込んだ。利用者の年間の延べ入院日数は約800日と過去最悪となり、それに伴う減収によって特養は赤字決算となった。このため、介護保険事業全体の稼働率を月例で精査し、全職員が理解することで経営感覚の定着を図った。令和7年度は、利用者の過度な入院を減らし、ホーム内での医学的ケアの充実や通院の強化によって、入院に伴う稼働率の低下を防止できるよう努める。

④ 権利擁護の推進

令和6年度は、利用者の安心・安全を守るため身体拘束適正化・虐待防止委員会において「虐待の芽チェックシート」を活用した全職員調査を年2回行い、結果を分析する体制を整えた。その結果を踏まえ、職員間の声掛けやスローガンの掲示を行うなどして虐待防止を推進した。さらに、事故防止・安全対策委員会においてはインシデント・アクシデントの分析を行い、繰り返し発生する同種のアクシデントについてはエビデンスのある再発防止対策を強化した。

また、介護ソフト「ほのぼの」を活用した事故報告を可能にすることで、より迅速に情報を共有できるようシステム改修に取り組んだ。

⑤ 行事の実施とボランティア等の受入

ホームパーティーやホーム喫茶、療育音楽、納涼祭など季節ごとの諸行事を再開し、ご家族にも積極的に参加していただくなどして利用者からも好評をいただいた。また、季刊誌「ほほえみ」やホームページにてボランティアを募集し、ご家族や地域の方々との協力も得られた。

東京都が実施する「かいごチャレンジインターンシップ」を活用し、介護職に興味をもつ多くのインターンシップを受け入れた。様々な年齢の方の申し込みがあり、社会貢献に寄与した。

⑥ 看取り介護の充実

コロナ禍で中断していた年2回の「看取り介護家族勉強会」を再開し、ホームの基本理念である看取り介護に関する職員研修会と並行して実施し、職員・ご家族ともに学べる機会とした。第1回は看取り介護に関する基本学習、第2回は、看取り介護にかかる費用や指針等の発展学習とし、過去の利用者のご家族による体験談なども企画したことで、ご家族からは

たいへん好評をいただいた。

⑦ 栄養ケアの充実

令和6年度は嚥下機能評価を行い、誤嚥性肺炎予防や喫食率向上のため、関係職種間で連携体制や意識づけに取り組み、一定の成果を上げることができた。令和7年度は、新たな委員会を活用し、食事介助方法の改善を目指すとともに誤嚥性肺炎の予防や喫食率向上につなげたい。

令和6年度から本格導入したブラストチラー及びクックチルシステムにより、給食委託業者の早朝勤務や長時間労働が緩和され、労働環境整備や働き方改革にも貢献することができた。しかし、食材料費の高騰が収まらず、利用者の食費も改定せざるを得なかったが、引き続き食材料の見直しやメニュー調整に努め、今後も食事に対する利用者の高い満足度を維持できることを目指す。

⑧ 利用者の生活環境の整備

利用者に快適な生活を提供するため、大規模修繕に伴う浴室の改修や加湿器など備品の更新を行った。一方、マットレスの更新まではできなかつたため、令和7年度は褥瘡防止のためのエアマットレスの更新や、感染症の拡大防止に有効な館内すべてのロスナイ換気扇の更新も行う予定。

⑨ BCP委員会の発足

令和5年度に「BCP策定委員会」がとりまとめた業務継続計画の定着を図るため、令和6年度は「BCP委員会」として活動を継承した。委員会開催に加え、実効性のある研修や訓練を実施するため作業部会も開催して取り組んだ。さらに、同愛記念病院が主催するBCP研修に参加し、最新のノウハウを活かしてホーム独自の災害時初動体制フローを作成し、全職員に周知した。

また、12月には感染症防止対策研修・訓練を、2月には災害時対応研修・訓練を実施した。災害時対応訓練においては、新たな取組として『KIZUKI』ゲームを活用したシミュレーションも実施した。

(2) 短期入所生活介護（ショートステイ）

① 空床ショートステイの有効活用

ショートステイでは、年間稼働率131.8%という過去最高の稼働率を実現した。令和7年度も特養の空床を安定的に補完できるよう、空床ショートのいっそうの有効活用に取り組む。

② 柔軟な利用体制の充実

令和6年度は、ご家族をはじめ緊急的な利用を求められる機会が多く発生した。その都度柔軟に調整を行い、関係機関と連携を図った上で受入体制を整えることができた。デイサービスを併用している利用者が少なくないことから、デイサービス部門と連携し、双方で同時に受入体制を整えた事例もあった。地域包括支援センターや居宅介護支援事業との連携も功を奏したことから、令和7年度も6事業を運営するホームならではの強みを活かした運営をしていく。

③ サービスの充実と利用契約者の増加

毎月、デイサービスでは「同愛カフェ」を、特養では「ホームパーティー」等を開催し、

催しものを通したサービスの充実に努め、利用者に対しても充実した時間を提供することができた。その情報を関係機関に発信するとともにインスタグラムにもアップし、PRにつなげることができた。

契約者数においては、1年間で61名の新規契約を取ったが、常連的な利用者が中心となっていることも踏まえ、令和7年度は幅広い契約者に利用してもらえることを目指す。

(3) 通所介護（デイサービス）

① サービスのマンネリ化の解決と利用契約者の安定確保

サービスのマンネリ化を防止するため、季節のイベントや同愛カフェ等のレクリエーションの充実に努めた。しかし、結果として年間平均稼働率は76.3%と、昨年度比マイナス0.1%にとどまった。同時に、デイサービスを利用する利用者の要介護度が低下傾向(R6:平均2.60、R5:2.66)にあるため、減収リスクが懸念される状況も見られた。

② サービス提供体制の充実

サービス提供体制の充実については、半日利用の実現のための送迎ドライバーの確保等の課題が未解決のため実施には至らなかった。令和7年度も継続課題として取り組んでいく。

③ ホーム運営を支えるための意識強化

デイサービス職員の意識強化については、毎月の収益・稼働率等実績確認表などのデータを活用するとともに、利用者からの苦情・相談等への丁寧な対応を通してスタッフの意識強化に努めた。

(4) 地域包括支援センター

① 総合相談窓口としての機能強化

地域の老人クラブやサロンや団体が希望する講座の開催、自主グループ活動の場等に出向き、情報提供等の後方支援を行うとともにセンターのPRに努めた。また、広報誌「ひだまり」1700部、「ひだまり号外」4000部、「元気応援通信」800部を配布し、身近な相談窓口としての周知も図った。さらに10月にはインスタグラムを開設し、令和6年度末現在のフォロワー数が171になった。

なお、総合相談件数（延件数）は2,869件（R5:3,023件）、介護予防・第1号介護予防支援件数は3,269件（R5:3,272件）と例年並みであった。

② 連携体制の強化

地域の介護事業所や墨田区の地域リハビリテーション活動支援事業にも協力をいただき、体力測定会や介護予防普及啓発（出前講座）を合計13回実施し、延べ212人が参加した。

11月には地域の介護事業所と協働し、「同愛地区 ふれあい地域交流会」を企画し、地域の事業所を巡るウォークラリー（参加者25名、参加事業所数19か所、スタッフ30名）を実施した。また、地域住民からボランティアとして3名の協力もいただいた。

介護と医療が地域課題を共有し、その課題を連携して解決ができるよう地域ケア会議等を12回開催し、三師会との連携も強化することができた。

③ 地域住民とも協働した生きがい作り

地域の高齢者が自身の得意分野を地域で活かすことができるよう、「同愛いきいきサポー

ター」を募り、地域のイベント等につなぐなどして生きがい作りに力を入れた。併せて、地域住民が趣味や生きがい活動に参加しやすいよう、既存のサロンや自主グループ等のリーダーの協力をいただき「同愛地区活動の場一覧」を作成した。

(5) 高齢者みまもり相談室

① ネットワークの拡充

地域の高齢者が安心・安全な生活を継続できるよう、墨田区高齢者福祉課・各相談室と協力して「見守りガイドブック」を作成した。さらに、このガイドブックを町会、老人クラブ、民生委員・児童委員、関係機関などに対し、周知・活用を推奨するとともに見守り体制の充実にも努めた。

また、「みまもりだより」を地域に広めることができるよう、未設置地域の商店、医療機関等に出向き、設置個所を3か所増やした。(令和7年3月末時点で148箇所)

② アウトリーチの充実

孤立傾向や支援を必要とする高齢者を早期に発見し、必要な支援につなげられるよう生活実態把握768件(延)実施した。また、関係機関と連携し85歳以上の高齢者世帯を重点に健康状態不明者16名の実態把握や、331名に対し熱中症注意喚起のため訪問等も行った。

③ 社会資源リーフレットの更新

令和2年度に作成した「高齢者を見守るとくどく情報」リーフレットを改訂し、地域で活用してもらえるよう町会、老人クラブ、民生委員・児童委員、関係機関などに周知し、地域の高齢者が安心して暮らし続けられるよう支援を行った。

(6) 居宅介護支援事業所

① 黒字運営への移行

地域包括支援センターが主催したウォークラリーをはじめ各種イベント等に参加し、地域住民との交流や居宅支援事業所のPRに努めた。併せて、令和6年度は介護支援専門員2名を新規採用するなどして人事を刷新し、令和7年度以降は黒字体制に移行できる目処を付けることができた。

② 新規契約者の安定確保

令和6年度もこれまで同様、各関係市区町村や他の地域包括支援センター、医療機関や指定介護サービス事業所、民間サービス事業所などとの連携に努めたことで、病院の医療連携部門や地域住民等からの新規契約の依頼件数が増え、経営の安定化につなげることができた。

③ 相談業務の質の向上

介護支援専門員としての知識及び資質の向上に努め、利用者ニーズに応じた様々なサービスを提供できるよう、墨田区主催の医療と介護の連携研修や各種講習会に参加した。なお、令和6年度のケアプラン作成件数は、予防プラン(総合事業含む)が333件(R5:76件)、介護プランが850件(R5:516件)であった。

④ 利用者の尊厳の保持と自立支援

これまでと同様に関係機関と連携したマネジメントを継続し、自立支援や重度化予防を目標に利用者・ご家族への丁寧な支援に努めた。また、ケアマネジメントの実践においては

人ひとりの自己決定と選択を支援し、できる限り自ら選択した場所で希望する生活を実現できるように支援した。

同愛記念ホーム拠点 利用状況表

特別養護老人ホーム

稼働率等の状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入所者定員	100名	100名	100名
平均年齢	85.9歳	86.5歳	88.5歳
稼働率	97.1%	96.9%	96.2%
退所者数	35名(内死亡者35名)	42名(内死亡者41名)	39名(内死亡者31名)

(介護度別) 平均介護度

	令和5年3月31日	令和6年3月31日	令和7年3月31日
要支援	0名	0名	0名
要介護1	0名	1名	0名
要介護2	4名	4名	4名
要介護3	15名	15名	15名
要介護4	51名	47名	45名
要介護5	30名	27名	32名
合計	100名	94名	96名
平均介護度	4.1	4.0	4.1

受診状況

内科診療	定期健康診断	血圧測定	体重測定	回診
1,499件	年1回	月1回 (症状により随時測定)	月1回 (症状により随時測定)	毎週 水曜日

同愛記念病院（協力医療機関）の利用状況

外来受診	入院	往診	急患室受診
133	40	88	18

利用者が有する心身の機能低下及び疾病にかかる状況

身体状況

体幹障害	片麻痺	上肢障害	下肢障害	言語障害	視力障害	聴力障害
9	13	22	93	19	9	17

慢性疾患

高血圧	心臓病	糖尿病	脳血管障害	呼吸器疾患	消化器疾患	骨関節疾患	腎障害	その他
40	26	13	30	4	12	23	7	44

注：その他は、前立腺疾患、甲状腺疾患、貧血、精神疾患、パーキンソン等である。

認知症の状況

(柄澤式「老人知能の臨床的判定基準」)

最 高 度	高 度	中 等 度	軽 度	な し	計
20	45	22	7	1	96

老人短期入所事業 (ショートステイ)

稼働率等の状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
利 用 定 員	9名	9名	9名
平 均 在 日 数	11.4日	10.6日	9.8日
平 均 介 護 度	2.84	3.19	3.16
稼 働 率	127.2%	116.7%	131.8%

老人デイサービスセンター

稼働率等の状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
利 用 定 員	35名	35名	35名
登 録 者 数 (通 所)	74名	80名	86名
〃 (総 合 事 業)	11名	11名	8名
実 施 日 数	312日	312日	312日
平 均 介 護 度	2.64	2.66	2.60
稼 働 率	76.3%	76.4%	76.3%

地域包括支援センター

① 相談対応件数（延件数） 2,869 件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	123	108	77	109	116	103	136	102	92	125	91	94	1,276
権利擁護	2	2	7	5	2	4	3	12	6	7	4	6	60
虐待	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高齢者施策	13	19	15	12	22	21	23	16	9	19	14	8	191
保健	1	0	4	5	12	5	2	0	1	3	3	12	48
医療	54	36	35	28	41	30	42	19	28	25	31	39	408
認知症	26	15	17	18	16	21	17	14	18	23	27	31	243
介護予防	18	11	10	5	8	13	7	12	8	6	5	1	104
その他	55	34	39	35	46	54	43	43	54	50	45	41	539
合計	292	225	204	217	263	251	273	218	216	258	220	232	2,869

② 介護予防・第1号予防支援件数（事業対象者、要支援1・2） 3,269 件

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
自己作成	介護予防サービス費	94	94	88	85	79	82	82	74	94	79	81	87	1,019
	介護予防ケアマネジメント費	59	60	69	69	71	74	75	75	62	65	60	59	798
委託	介護予防サービス費	76	72	64	62	67	75	74	72	81	80	77	73	873
	介護予防ケアマネジメント費	40	41	51	51	47	46	46	59	40	53	53	52	579
合計		269	267	272	267	264	277	277	280	277	277	271	271	3,269

高齢者みまもり相談室

① 相談件数及び相談者の区分

	来所	電話	訪問	その他	計
本人	22	91	172	21	306
家族・親族	11	39	14	8	72
近隣・知人	1	13	0	3	17
行政関係者	0	26	0	4	30
関係機関	0	15	0	2	17
民生・児童委員	3	46	0	22	71
医療機関・介護事業者	1	11	0	1	13
見守りボランティア等	0	1	0	0	1
その他	1	8	1	1	11
合計	39	250	187	62	538

② 相談等対応時の連携先

連携先	連携件数
地域包括支援センター	258
区役所（福祉事務所等）	62
社会福祉協議会	1
保健所	3
民生・児童委員	83
見守りボランティア等	0
介護サービス事業者	51
医療機関	15
消防・警察	5
相談員で解決	165
その他	21
合計	664